



2.「桃山学院経済学部サイトに掲載された『『経済学文献データ検索』の運用停止にあたって』(99.9.20追加)

3. 社会・労働関係文献月録(1999.6受け入れ分)(99.9.13掲載)

\*\*\*\*\*

【大原デジタルライブラリー(電子図書館・資料館)】

<http://oisr.org/dglb/index.html>

1. 外部評価コーナー(99.8.29掲載)

★ E-Textリンク集 ★ (WWW上に存在する社会・労働関係のE-Textへのリンク集)

<http://oisr.org/sp/etextlink.html>

1. 配偶者扶養に関する緒言説の分析:川村 幸代(99.9.9E-Textリンク集に追加)

2. 日本のメディアと女性運動の展開—ジェンダーと公共圏をめぐる闘争:齊藤正美(99.9.9追加)

3.「労働の多様化に向けた労使の役割」—中京地区自動車産業の実証研究—:中部産業・労働政策研究会(99.9.9追加)

4. 調査研究報告書『古紙問題を考える——北海道の事例から』:北海道大学文学部・地域科学演習(99.9.9追加)

5. 遷延性意識障害の子どもと家族との相互作用について:本田陽子(99.9.追加)

6. 介護給付の評価:前田信雄(99.9.9追加)

7. 日本の介護・世界の介護:前田信雄(99.9.9追加)

8. 高齢者の在宅福祉に関する研究—ホームヘルパーの意見を中心に(1):森二三男・真木誠(99.9.9追加)

9. 高齢者の在宅福祉に関する研究—ホームヘルパーの意見を中心に(2):森二三男・真木誠(99.9.9追加)

10. サラリーマンの高齢期の就労と今後のキャリア設計に関する調査:ライフデザイン研究所(99.9.9追加)

11. 地域における高齢者福祉サービス調査報告書:連合総合生活開発研究所(99.9.9追加)

12. 参加・発言型産業社会の実現に向けて—わが国の労使関係制度と労働法制の課題:連合総合生活開発研究所(99.9.9追加)

13. 富山大学人文学部社会学コース卒業論文・修士論文ライブラリ(99.9.9追加)

14. クリティカル・ディスコース・アナリシス(99.9.7追加)

15. メディアと女性表現をめぐる現状と課題—「用語問題取材班」の批判に応える(99.9.7追加)

16. 公共圏をつくる試み—ジャーナリストと市民の相互活動(99.9.7追加)

17. 「ジェンダー的公正報道」のガイドライン(99.9.7追加)

18. 性差別表現とガイドライン運動の再検討—Deborah Cameronらの議論から・D.Cameron(ed.,1998),part two Representations:Sexist language nadsexist discourse特にD.Cameron, Lost in translation:Non-sexist language の議

論を中心に(99.9.7追加)

19.「批判的ディスコース分析(CDA)」の可能性-新聞ニュースのジェンダー  
(99.9.7追加)

20.批判的ディスコース分析(CDA)の意義と課題(99.9.7追加)

21.介護保険施行に向けての課題(99.9.5追加)

22.井戸正伸『経済危機の比較政治学-日本とイタリアの制度と戦略』への疑問  
(99.9.5追加)

23.労働運動の明日とは何か:高木郁朗(99.9.5追加)

24.日本の住文化に関する一考察「ウサギ小屋」再考:市川孝一 (99.9.4追加)

25.日本のキリスト教会と戦争責任-日本基督教団の「戦責告白」を事例に-:  
竹ノ下弘文 (99.9.4追加)

26.「働き過ぎ」という快樂へのドライブの構造:藤本一男 (99.9.4追加)

27.生活史調査の可能性 --小松市高齢者の生活史調査を例として-- :由谷裕也  
(99.9.4追加)

---

★ 学術研究関連リンク集 ★  
(WWW上に存在する研究関連情報・ツールに関するリンク集)  
<http://oisr.org/sp/dglblinks.html>

1. Workindex.com (99.9.2追加)

---

★社会労働関係文献データベース★  
<http://oisr.org/kensaku/ronbun.html>  
<http://oisr.org/kensaku/washo.html>  
<http://oisr.org/kensaku/yosho.html>  
○データは、毎月更新しています。(最新: 99. 9.13)

\*\*\*\*\*  
【社会労働関係リンク集】  
<http://oisr.org/links/toc03.html>

★ 社会・労働関係リンク集 ★  
(つぎのサイトを追加し、あるいはURLまたは名称を訂正しました。)

(追加したサイト)

1. 全国農団労(99.9.22追加)

2. 千葉県高等学校教職員組合「日の丸・君が代」対策委員会(99.9.10追加)

3. 偕成社臨労(99.9.9追加)

4. 長崎大学教職員組合(99.9.9追加)

5. 鹿児島大学教職員組合(99.9.9追加)

6. 墨田区教職員組合(99.9.9追加)

7. 首都圏建設産業ユニオン多摩支部青年部(99.9.2追加)

8. NTT労組西本部(99.9.2追加, ただし現在組合の要望により一旦リンク中止)

9. 私鉄総連(99.8.30追加)

10. 出版労連中部地協(99.8.30追加)
11. 出版労連西部地協 (99.8.29追加)
12. 新日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部(99.8.29追加)
13. 日本航空機長組合(99. 8. 29追加)

(URL、名称を変更したサイト)

1. Schweizerisches Sozialarchiv(99.9.25URL変更)
2. 日本エアシステム労組航空機関士支部(99.9. 23URL変更)
3. 富士通ユニティ(99.9.22URL変更)
4. 豊能障害者労働センター Toyono Disabled Work Center(99.9.22URL変更)
5. 建交労井住運送支部(99.9. 22名称変更)

\*\*\*\*\*

### 【 スタッフ個人サイト 】

★ スタッフ個人サイト ★  
<http://oisr.org/links/toc04.html>

### ○ 個人サイトの近況○

○  
□二村一夫著作集 (<http://oisr.org/nk/>)  
9月25日の開設2周年を機に第2期刊行を開始しました。今回は「『無産者新聞』小史」、「大原社会問題研究所との43年間」など6本の新しいファイルを追加し、すでにオンラインで発表している「大原デジタルライブラリーのこと」「社会・労働関係サイト探検」など8本を組み込みました。今回の目玉は、「編集雑記」欄の新設です。

\*\*\*\*\*

### 【 研究所刊行物 】

<http://oisr.org/pub/toc05.html>

1. 99年10月号予告を掲載。(99.9.13)

\*\*\*\*\*

### 【 英語版 】

<http://oisr.org/english/toc06.html>

---

Links to Labor and Social Websites in Japanにつぎのサイトを追加し、あるいはURLを訂正しました。

<http://oisr.org/links/elinks.html>

今回は新たな変更はありません。

\*\*\*\*\*

### 【 社会問題研究リソース 】

社会問題研究に関するさまざまな基本文献やインターネット上のリソースを提供する研究案内です。(現在は、今後カバーする社会問題のリストとプロジェクトのプランのみ)。

<http://oisr.org/sp/index.html>

今回は新たな変更はありません。

\*\*\*\*\*

【レッスン】

OISR.ORG作成の舞台裏をお見せします。社会科学系サイトの水準向上のために、ともに学び、ともに悩みます。OISR-Watch 連載のコラムもここで順番に読めるようにしました。

<http://oisr.org/lesson/index.html>

1. Namazuのインストールについて： 是枝 洋 (99.9.10掲載)

\*\*\*\*\*

△▽△▽△▽△▽△▽△▽ OISR コ ラ ム △▽△▽△▽△▽△▽△▽  
このコーナーは、当研究所関係者のコラムを掲載します。今回は、二村一夫  
名誉研究員、野村一夫兼任研究員の記事を掲載します。

\*\*\*\*\*

社会・労働関係サイト探検(8)

二村 一夫

【分野別サーチエンジン点検】

このところ個人サイトの更新に追われて、あまりサイト探検の旅に出る時間がなかった。そこで、いつも使っているサーチエンジンについて論じてみたい。ついこの間までは、《社会・労働関係リンク集》作成のために新しい労働組合サイトなどを探すためにはYahooかgoo、あるいはInfoseekなどを使っていた。最近、組合サイトの発見は新ウェブマスターの鈴木さんにお任せで、私は《e-textリンク集》の採録対象を探ることが主になっている。そうしたこともあって、最近はこうした巨大サーチエンジンより、分野別の全文検索システムを使うことが多くなっている。大サーチエンジンについては、すでにさまざまところで論じられているので、ここでは、最近とみに増えた分野別の全文検索システムを取り上げよう。

まず、このコラムに関係のある《分野別全文検索システム》を列挙しておこう。ただし、今回は日本語サイトに限定したい。

まずは我田引水で、  
☆ OISR.ORG全文検索  
<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/cgi-bin/namazu.cgi>

まだ、実験段階だが、OISR.ORGおよび36の労働組合サイトが検索可能である。今後、「社会・労働関係リンク集」に採録されているサイトを中心に随時採録対象を増やしていく方針である。野村一夫氏担当。  
「OISR.ORG全文検索」の導入経過など、詳しくは、本号の野村一夫氏のコラム「オイサー・オルグは電子ナマズの夢を見るか」をご参照ください。

以下の3サイトは、私が制作を担当している《学術研究関連リンク集》で紹介している分野別の全文検索システムである。

☆ 社会学系ウェブサイト全文検索サーチエンジン  
<http://jinbun1.hmt.toyama-u.ac.jp/socio/kensaku/query3.htm>

富山大学人文学部社会学コース佐藤裕氏作成。社会学系サイトのみを選択し、ロボットに定点観測をさせ、効率良く検索することをめざした社会学専門サーチエンジン。現在、新しいe-textを発見するのにいちばん役立っている。それというのも検索対象の選択が良いためである。  
検索対象のサイトは、富山大学社会学コースのリンクリストなどを元にして選んだという。採録基準は、論文、エッセイ、報告書、文献リストなどの情報を含むページに直接行きつけるように考えて選択されている。社会学系とその隣接領域の研究者個人のサイト、およびそれを含む研究機関のサイト、それに報告書や調査データを掲載している民間研究機関や官公庁のホームページなどである。



☆ Humanities-Search

<http://alpha.fine.chiba-u.ac.jp:8080/~nagasaki/humanities-search/>

筑波大学哲学・思想研究科の永崎研宣氏作成の人文科学系ホームページの全文検索エンジン。人文科学系中心であるが、社会・労働関係のe-text発見にもずいぶん役に立っている。このサイトで、フリーソフトのNAMAZUの存在を知ったことでOISR.ORGの全文検索も可能になった。

検索対象のサイトは、つぎのリンク集を利用して選択されているという。

- 1) 国内言語学関連研究機関WWWページリスト(東北大学文学部後藤齊氏)
- 2) 社会学関連サイトへのリンク集(大阪大学大学院人間科学研究科社会学専攻)
- 3) 歴史学関係リンク集(鵜飼政志氏)
- 4) 哲学/倫理学/宗教学関係国内リンク集(拙作)
- 5) 日本のインターネット心理学情報(磯部聡氏→松井孝雄氏)
- 6) 美学の部屋(関西学院大学加藤哲弘氏)
- 7) OrientNet(清水光幸氏)
- 8) 日本近現代文学に関連のあるWebのサイト(帝京大学福岡短期大学市川毅氏)
- 9) ロシア関連・情報リソース(北海道大学スラブ研究センター)

☆ 労働情報ナビゲートシステム

<http://navijil.go.jp/cgi-bin/gwiisole.dll/nvk01.MainClass.Action>

日本労働研究機構が1999年8月から発足させた労働関係サイトの検索エンジン。日本最初の労働専門のサーチエンジンの発足で、大いに期待したのだが、実際に使ってみて失望した。分野別のサーチエンジンの値打ちは、巨大サーチエンジンにくらべて、めざすサイトやファイルを容易に発見できるところにあるのだが、ここでの検索結果は「ゴミ」が多すぎる。原因は、収集している対象サイトの選択が機械的にすぎるためである。誰が決めたのかしらないが、インターネットを実際に使っていない人がやったとしか思えない。あるいは、官庁の関連機関としての立場上、網羅的なサイト選択をせざるをえないのかもしれない。

対象サイトは一覧表が出ているので分かるのだが、労働省、都道府県、特殊法人、認可・公益法人等、研究機関、労働組合、大学、大学院といった組織のサイトが網羅的、つまり選択的でなく集められている。そのため、労働関係の情報など発信していない組織が多数集められている。このため、実際に検索してみると、大学のスタッフ紹介や講義名、あるいはシラバスなどが多数出てくる結果になりがちなのである。

その一方で、労働関係のサイトとしては日本でもっとも充実している「労務安全情報センター」などが、上記のカテゴリーのどこにも含まれないので検索対象になっていない。ちなみに、わがOISR.ORGも対象外である。労働組合も連合体や協議会レベルまでで、単組が入っていない。

さらに言えば、今インターネットで新しい情報を発信しているのは、こうした組織のサイトよりも個人のホームページが多いのだが、「労働情報ナビゲートシステム」の場合は、たまたま大学のサイトに研究者個人のサイトが含まれている場合は検索されるが、サーバーが別だったりすると洩れてしまう。「社会学系ウェブサイト全文検索サーチエンジン」が、まず情報を発信している個人サイトから出発していることで検索効率を良くしているのと対照的であるといえよう。

もうひとつ言えば、検索結果でURLが隠されている点も使いにくい。URLがすぐ見えるようになっていけば、慣れてくるとどんな組織なのかある程度見当がつくのだが、その手がかりがないので、実際にそのサイトに行ってみないと、役に立つ情報があるのかどうか分からないことが多い。

期待していた労働関係専門のサーチエンジンただだけに、ガッカリしたというのが正直な感想である。

以上のほかにもつぎのような関連する分野別サーチエンジンがある。

☆「福祉と人権」全文検索システム

<http://www.humind.or.jp/Search/index.html>

これは、社会福祉法人 大阪府総合福祉協会(HUMIND=ヒューマインド)が作成

している全文検索システムで、現在、8,681 のファイルがインデックス化されているが、その半ばは厚生省のもののように、厚生省だけを対象に検索できるようになっている。  
まだ対象サイトの数が限られている。ここもNAMAZUを使っている。

☆ 医療情報電子検索システム  
<http://www.pmet.or.jp/search/index.htm>

これは日本医師会など医療関係団体が中心になって設立された「医療研修推進財団」作成のものである。医療関係者向けのもので、対象サイトも医療関係のものだけのようである。

☆ 検索省  
<http://st.jr.chiba-u.ac.jp/mos/>

スクールテック＝「コンピュータ/ネットワーク学校教育利用技術メイリングリスト」の関係者によって作成されている官庁の全文検索システム。対象官庁を選択することもできる。

☆ 学校検索  
<http://sagasu.jr.chiba-u.ac.jp/index.html>

学校専用検索自主研究グループ作成。検索省の関係者と重複しているようである。

以上

(にむら かずお・名誉研究員)

\*\*\*\*\*

ウェブ・スタイリストの生活と意見[8]

オイサー・オルグは電子ナマズの夢を見るか

野村一夫(兼任研究員)

八月後半はコードネーム「なまず作戦」にかかりきりでした。これは“namazu”というツールによって日本語全文検索システムを構築しようというものです。

かねてからOISR.ORGに全文検索機能をつけたいという希望が寄せられていました。けれども、どうしてよいものか皆目見当がつかず、そのまま宿題になっていました。この初夏、元職員の是枝洋さんがマイクロソフトのインデックス・サーバというツールで実験を試み、ある程度の成果が得られたのですが、OISR.ORG上では不具合があったようで、すぐ実用化するというわけにはいきませんでした。

「社会問題研究リソース」第一陣の立ち上げがいったん終わった直後から本格的に研究を始め、そのさい、いっそ商用の検索サービスを使ったらどうかとも考え調べてみましたが、InfoSeekの検索サービスUltraSeekでやると百万円(1万ドキュメントの場合)かかることがわかったので断念。他のサイトのケースを調べた結果、“namazu”がけっこういけるのではないかということになりました。すでに是枝さんがローカルで試して成功していたので、これで一も二もなく無料の“namazu”でやるということになりました。なにしろこちらに予算はないのですから。

作業は八月下旬からとりかかりました。インストールの仕方については、是枝さんがまとめてくださった、通称「是枝メモ」をご参照ください。「レッスン」の中にあります(<http://oisr.org/lesson/lesson10.html>)。おおよそ、こんな感じでインス

ツールは進みます。都合四つのツールをインストールします。“namazu”だけでは動きません。

しくみは次のようになっています。まずシステム全体を動かすのにPerlを組み込みます。Perlはプログラミング言語のひとつでUNIXでは標準のものです。しかしWindowsNTの場合はここから始めなければなりません。今回は“Active Perl for Win32”を組み込みました。具体的には、まず“nkf32”が漢字コードをJISに変換します。つぎに“kakasi”が日本語を分かち書きにします。ここから“namazu”のmknmzコマンドが検索用のインデックスを作成します。“namazu”はこの専用インデックスを使って検索します。そのため検索速度はきわめて高速です。

これはみなさんもお自分のパソコンで試してみることができます。たくさん書きとめた原稿や、あちこちから取ってきたファイルの数々も、“namazu”で一気に検索して呼び出せます。何の整理もいりません。つまり「超」整理法です。野口悠紀雄『「超」整理法3』(中公新書)では「Grep検索」が推奨されていて、それはそれでいいのですが、ナマズはナマズでけっこう使えます。ただしUNIXとWindows上でしか動作せず、設定にはある程度のMS-DOSの知識が必要です。検索には“search-s for Namazu”というフリーウェアをインストールして使います。

インターネット上で検索するために、CGI経由で“namazu”を使えるように設定して、検索画面もカスタマイズしました。インデックスの更新を手作業でやるのは大変ですから(「だれがやるんだ」というタライ回しになりがちですね)ATコマンドで自動化することにしました。ウェブ・スタイリスト野村はNTをいじるのがほとんどはじめてでありまして、ATコマンドといわれるとビビってしまうのですが、それがオートタイマーの略らしいとわかって、ビビりが取れました。なにごととも既知のものに置き換えてしまえば、むやみに畏れる必要はないのです(ま、今だから言えるのですが・・・)。

さて、標準の全文検索はここで終わりです。私たちはここまでを「小なまず作戦」と呼んでいます。「こなまず」と発音してください。OISR.ORGの「なまず作戦」じつは小・中・大と三段階あるのです。

第二弾の「中なまず作戦」はソキウスの全文検索です。私の個人サイト「ソキウス」を独立して扱っているのは、これがスタッフ個人サイトで唯一外部サーバ上に置かれているものだからです(シェアテキスト・プロジェクト“honya.co.jp”にあります)。したがってインデックスは別個になります。そして、OISR.ORGのインデックスといっしょに検索してはじめて当研究所関係の全コンテンツから検索できることになります。ただし、ここはユーザーにチェックして選択してもらう仕様にしました。

“namazu”はローカル・ディレクトリのファイルからでないインデックスを作成できません。ですから、外部サイトの全文検索をおこなうには、インデックス作成用に入ったHTMLファイルを取りこんでおかなければなりません。これがやっかいな問題でした。「中なまず作戦」は、外部サイトを取りこんでインデックスを作成する点で、最終目標の「大なまず作戦」の先行パターンとして重要でした。つまり「中なまず」を何回も繰り返せば「大なまず」になるはずなのです。

問題はダウンロード・ツールを何にするかでした。これはもう軒並み試してみました。UNIXサーバであれば、こういうときに使うツールはだいたい決まっていて、それについては情報もあるのですが、NTサーバ用となると、案外いいものはありません。個人的に画像をまとめてゲットしたり、サイトを丸ごと取りこんでローカルでリンクさせてゆっくりブラウズできるようにするツールはたくさんありますが、精度が高く、HTMLだけをこちらの指示通りにダウンロードしてくれるツールでなければなりません。とくに重要だった点はドメインネームをそのままディレクトリにして保存することだったのですが、そういうツールがほとんどないのです。商用のもの、窓の杜、ベクターと軒並み試用して、結局“PageDown”にしました。フリーウェアです。これでソキウス全文検索は一応メドが付き、バッチ処理できるようにもしました。ただし、現状では手動更新のままです。私が研究所に行ったときに更新することになっています。

さてさて、とにかく大原社研ではリクエストの要求水準が高いので、「大なまず」まで行かなくてはなりません。私自身も授業が始まると、じっくりサーバイじりできなくなることが見えていたので、そのまま「大なまず作戦」に入りました。「おおなまず」と発音してください。これは「日本の労働サイト」全部の全文検索です。OISR.ORGのメインコンテンツのひとつである「社会・労働関係リンク集」からリンクしている労働サイトを対象にして全文検索システムを構築しようというのです。こう



ということこそ専門研究所公式サイトの使命であり、腕の見せ所でもあります。とにかく気の遠くなるような試みではあります。

まず労働サイトをひとつひとつダウンロードする設定を“PageDown”でおこないます。HTMLだけをダウンロードすればいいので、それほどハードディスクを圧迫するわけではないようです。それをもとに「日本の労働サイト」でひとつのインデックスをつくりまします。これが“labor”というインデックスです。この原稿執筆時点で大手36サイトが検索できます。これを「社会・労働関係リンク集」掲載の1116サイトにすれば一応の完成になります。ただし、全サイトをそのまま検索対象にするかどうかは考慮する必要がありますし、更新のタイミングなどについてもこれから検討しますが、こちらはかなりメンテが大変そうです。というのもダウンロードに時間がかかるのです。「小なまず」については、サーバに負担のかからない深夜にインデックスの自動更新をかけていますが、「大なまず」については、このあたりの態勢づくりが今後の課題です。

というわけで、私にとってはじめての「大原の夏」は終わりました。仕事のあと、スタッフの皆さんとたくさんビールを飲んだことと、緑陰テニスをしたことがいい思い出になりそうです。

いずれにしても、全文検索を整備したことで、OISR.ORGすべてのページがそのままデータベースのコンテンツになります。もちろん、きちっと設計されたほんとうのデータベースと同じようにはいきませんが、正しいオーサリングがなされてさえいれば、それなりの順序できちっとコンテンツが出てきます。ということは、これからOISR.ORG上で公開されるコンテンツはすべてデータベースになるということです。このことの意味については、そのうち書きたいと思います。

ところで、なぜ「なまず」なのでしょう。久しぶりにMS-DOSのコマンドを打ち込みながら、catというコマンドがあったことを思い出しました。『Linuxハンドブック』で調べてみたらcatはファイルの出力と連結をさせるコマンドのようです。「指定したファイルの内容をまとめて出力する」とあります。全文検索というのは、じつはこの作業をさせているので、つまりキーワードに見合うテキスト部分(文字列)をファイル群の中から探して、ひとつのファイルとして出力(表示)しているわけです。だからcatなんです。catから連想することばといえば“catfish”つまり「なまず」というわけです。これが私の推測。なかなか親しみやすいネーミングであったと思います。

そして最後に教訓です。なまずは一日にしてなまず。いやはや、けっこう時間がかかります。

・OISR.ORG全文検索 <http://oisr.org/cgi-bin/namazugu>

(のむらかずお・兼任研究員・社会学)



編集後記

◇OISW-WATCH 9号をお届けします。前号から約1ヶ月ぶりの発行です。編集担当者(鈴木)が約1週間韓国へ出張したため発行が遅れました。

◇最新の更新情報をお伝えするニューズレターのはずが、情報が少し古くなってしまう申し訳ありませんでした。2つの「大作」コラムでご勘弁願いたいと思います。

(文責:鈴木玲)

\*\*\*\*\*

OISR.ORGでは皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。更新情報ニューズレター“OISR-Watch”(無料)をご希望の方はこちらにお申し込みください。

E-mail: [webmaster@oisr.org](mailto:webmaster@oisr.org)

購読を中止するときはこちらにご連絡ください。

法政大学大原社会問題研究所 (<http://oisr.org>)

〒194-0298 東京都町田市相原町4342  
TEL 042-783-2307 FAX 042-783-2311

\*\*\*\*\*

[1999年9月26日開始、担当・鈴木玲]

---

OISR-WATCH (Table of Contents)

---

[法政大学大原社会問題研究所 \(<http://oisr.org>\)](http://oisr.org)

---